

令和元年度第2回「京都市地域企業未来力会議」ビジネスアイデア一覧（敬称略）

アイデア①	Open Edutainment Lab.（オープン エデュテイメント ラボ）
発案者	株式会社 OpEL. 執行役員社長 倉橋 克彦
アイデアの概要	
小学生をメインターゲットにした創造性を養うための探求学習塾を構築する。STEAM 教育（科学，技術，工学，芸術，数学）を軸として，京都のモノ作りと，そこに関わる文化的背景や科学技術を楽しみながら学ぶことで，これからの未来を創造するために必要な 0 から 1 を産み出すための自由な創造性を引き出し，自分の好きなこと，興味のあることを発見し，自ら「問い・考え・行動する」ことを目的とする。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃から様々なことを体験し，興味のあることを見つけていくことが新たな価値の創造には必要である。 ・一般的な学校教育では画一的な答えを出すための勉強から脱却することは困難である。自らが取り組みたいと思える課題を発見するための力を養うための様々な経験を積ませることは学校だけでは達成しえない。 ・京都の地域企業家の支援を得て，子ども達にリアルな社会に多様性があることを体験させ，自由な創造を行っていいのだと気づかせてあげる場を作る必要があると考えた。 	

アイデア②	「企業物語」と人が出逢うストーリーコンテンツプラットフォーム「京都〇〇物語」
発案者	大原社会保険労務士法人 代表 和田紘子（社会保険労務士・社会福祉士）
アイデアの概要	
求人企業と就職希望者を結ぶ人材採用サイトを構築する。求人企業は，「企業物語」（創業・商品開発・社員物語等社風が伝わるエピソード）を掲載でき，社風との「共感・共鳴」で就職希望者とのマッチングを図るサービスである。人材採用サイトでありながら，「企業物語」のコンテンツプラットフォームでもある。 ※「京都〇〇物語」＝サービス名，名称は公募予定	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての会社に素敵な「企業物語」がある。企業にはその物語を発信する術や物語を執筆する時間がない，人材がないという課題が存在している。この課題を解決したい，企業の物語を，企業の魅力を伝える仕組み・場をつくりたいと思ったことが，ビジネスモデルを考え始めたきっかけである。 ・「企業物語」をコンテンツにし，会社と人を繋ぐ仕組みを構築できれば，中小企業の人材採用の機会創出にも繋がると確信し，ビジネスモデルを企画した。 	

アイデア③	C-Cocktail（仮称）～共創型地域企業人財育成研修～
発案者	京都信用金庫 企業成長推進部 大谷 洋平，中川 治己
アイデアの概要	
地域企業間の異業種従業員トレード，大学生の地域企業へのインターンシッププラットフォームを構築し，地元企業や学生の交流から地域社会の発展をサポートする。職場に緊張感が生まれる，仕事の進め方など「当たり前」と思っていたことに新たな発見がある，会話から新たな刺激を受ける，インターンの場合は大学生に地域企業を知ってもらう機会の創出や就職促進につながる等，様々な効果が生まれる。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業の人材不足，地域企業の従業員交流不足，大学生が地域企業を知る機会が少ない，などといった地域の課題に対して，京都信用金庫の強みである，地域企業のネットワークや「取引先企業派遣研修（約1ヶ月間，企業の従業員として実際に働くという実践型の研修）」のノウハウなどを生かせると考えたもの。 	

アイデア④	間伐材から生まれた純国産の天然素材の糸や布を使用した繊維ビジネス 山來(SANLAI)を京都から世界へ
発案者	株式会社リトゥリバース (ReTreeBirth) 奥田 英二
アイデアの概要	
<p>国産間伐材（スギ・ヒノキを主原料）からできた「木糸」や織った生地を使った製品を作り出し、消費・購入することで、日本の森林資源の持続可能な成長に寄与します。林業と繊維業が融合するこの新規事業は、ここ京都から打ち出していき、日本が誇れるサステナブルな環境の重要性を広めていきたい。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> 世界的に環境問題が注目され、日本においては豪雨災害や台風、大雪の影響による自然災害は増えている。微力ではあるが改善が進む。 日本においては「衣」の自給率がゼロに近い。この素材を年間1着、1点使うことによって1県分の山の整備が進む素晴らしさを知り、これからの素材と思った。 地域材を使い、地域向け商材を作り出すことが、地域経済、町興しにつながっていくと思う。 	

アイデア⑤	Libertalia Project～京都から世界へ～
発案者	office Shin 株式会社 増田 秋成
アイデアの概要	
<p>現在SNS等のネット上では、学生やフリーの方が様々なジャンルで芸術活動をし、話題になる反面、マネジメントの経験が無いため、トラブルになった事例が多くなっている。クリエイターの営業とマネジメントを担うことで、トラブルを回避でき、表現の発表場所が確保することで、京都を生活のフィールドにして、芸術活動に取り組めると考えている。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> 美術大学に在籍する美大生を取り巻くキャリア環境は非常に厳しい。 トップクリエイターを目指し、毎年多くの若者達が京都の大学の門を叩く。しかしながら、その多くの若者が、世の大半の人々が持たない専門技術を有するにもかかわらず一般職に着き、学生時代だけの仮住まいとして京都市に腰を下ろし、定着せず卒業とともに流出する現状がある。 	

アイデア⑥	アート・デザインの力、才能ある人材の育成による、地域の価値、経済価値を創出するプロジェクト
発案者	株式会社キャピタル 代表取締役 河野 将之
アイデアの概要	
<p>芸術に親しんでおられる方々の才能ある作品や知識、イベントを地域のお店や施設、コミュニティとマッチングさせ、地域の活性や地元の企業の認知度向上を行う。行政区単位で市民、行政、事業者、学生などが集まり、対話型鑑賞法をアート思考の専門家のファシリテーションのもとに行い、地域の価値の再発見、創造、実行によるイノベーションを起こしていき、その地域の経済価値を高めていく。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> 地域のお店や普段何気なく通っている道やその風景が明るく彩られていけば地域に対する愛着も深まり、当然防犯、防災効果も高まる。企業や、ものづくりの現場などでも店先にちょっとした装飾やディスプレイをする事によりもっと魅力を知ってもらえる。 左京区で言えば80もの国籍の方が混在する国際化地域としてグローバル化、多様性社会の理解、対策として、民間主体のイベントを通じた交流もしていくべきだと感じている。 	

アイデア⑦	経験価値を経済性に変えるHUBステーション
発案者	まあいいか labo きょうと 平井 万紀子
アイデアの概要	
<p>各企業にとって、介護者・認知症当人のニーズや望む情報を得ることは、莫大なマーケットになる。また企業は、そのニーズを知る人と結び付くことで、様々なメリットが生まれる。経験値のある人（介護者・認知症当人）のニーズを知ることで「きっと…」のサービス・モノづくりから、「これがほしい」と直結したサービス等ができる。「まあいいか labo きょうと」の強みであるネットワークを生かして、人材を育成し、社会復帰できる介護者・認知症当人が活躍できるHUBを作り、社会に戻れる人が多く現れる社会を作る。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・大好きだった、そして私にとって、親友でもあった母が認知症になったことがきっかけである。 ・多くの人が、認知症の人にもできることはたくさんあると、そして、役割がある・その力が必要だという社会構造ができたとしたら、介護者にとっても絶望的にもならないのではと思うようになった。 ・インターネットで知った「注文をまちがえる料理店」をきっかけに、さまざまな方々との出会い、お声を聴くことを通して、地域力の大切さに気づいた。 	

アイデア⑧	みんなのA型事業所～「福祉」という言葉のその先へ～
発案者	株式会社MIRISE 小島 拓也
アイデアの概要	
<p>一般企業での就職が難しい障害者等に対して、福祉制度（就労継続支援A型事業）の活用を通じた雇用創出を行う。内容はIT関連の業務提供で、就労意欲のある若年層の就労支援・雇用促進をしていく。「みんなのA型事業所」を実現する事で、A型事業所と一般企業等との間に、「障害」に対する緩衝領域を作り出し、一般企業等への障害者理解・雇用促進にも繋げていきたい。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・2018年4月に障害者の法定雇用率が2.2%（民間企業）に改正された。しかし、その達成率は50%に満たない。障害者の離職率は約40%（1年以内）と言われ、障害者の職場定着は課題である。 ・障害者等の働きづらさを解消し、障害特性と業務のマッチングを図りながら、社員一人ひとりがイキイキと働くために「多様な働き方」が実現できる雇用環境の創出が必要である。 	

アイデア⑨	ゲストハウス×シェアハウス×介護事業 <平成30年度提案ビジネスアイデア（継続）>
発案者	有限会社山田木工所 山田 正志
アイデアの概要	
<p>働くことが困難で孤立する社会的弱者（障がい者、高齢者、シングルマザー、児童養護施設出身者、難病者、身寄りのない人など）が助け合いながらシェアハウス・グループホームで生活をする。ゲストハウスを隣接し住人（社会的弱者）が働く場所を作る。働くことでお金をもらい、お客様に喜んでもらい、人の役に立ち、人に必要とされることを生き甲斐に感じ、幸せになってもらう。</p>	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・世の中には様々は困りごとを持って働けない、生活することが難しい方がたくさんいる。 ・同じような困りごとを抱えた方だけで生活すると助け合うことが難しいが、困りごとが違ったら助け合いながら生活できるのではないかと考えた。 <p>（例）高齢者がシングルマザーの子供の子守をする。難病者が障がい者の食事をつくる、など</p>	

アイデア⑩	職人の手仕事に触れて感性を育む「aeru school」開校！
発案者	株式会社和える 田房 夏波
アイデアの概要	
職人の手仕事に五感で触れ、子どもたちの感性を育むワークショップを、企業向けの社員研修・福利厚生として開催する。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、機械との共創の時代となる中で、AI が得意な左脳思考だけではなく、右脳思考に関わりが深い感性を育み、論理と感性をバランスよく発揮することが求められるようになる。 ・日本の職人の手仕事に触れる機会を作ることが、子どもたちの想像力・創造力を豊かに育むと信じている。 (例) はがきの型染め体験ワークショップ、越前和紙のちぎり絵 など 	

アイデア⑪	漆を21世紀の”当たり前素材”にするための共同体的モノづくり - Community Supported Industry -
発案者	一般社団法人パースペクティブ 共同代表 松山 幸子, 堤 卓也
アイデアの概要	
日本の工芸素材の多くは、植物性素材のものであり、人が生育に関与していけば、循環可能な資源といえる。循環可能な自然素材という「21世紀の当たり前素材」ともいえる「漆」をこの時代だからこそ価値を最大化し、一方で、専門家をつないで日本の漆の生産力を底上げしていくことを目的とする。材料調達に危機感を感じる他の工芸家たちのムーブメントを起こす起点にしたい。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・工芸の一番土台となっている、素材や道具に関わる人々の生きにくさ、その継承の危機感を感じてきた。 ・工芸都市京都だからこそ、工芸素材の生産を、人と自然との関わり方として、人がともに関わるコミュニティのあり方として、畑や森のこれからの選択肢として、そしてもちろん文化をつなぐ当たり前の要素として、「京都」で取り組む意義があるのではないかと考えた。 	

アイデア⑫	京都から発信する脱炭素社会実現に向けたイノベーションの創出 <京都市提案>
発案者	京都市 環境政策局 地球温暖化対策室
アイデアの概要	
本市では、2050年までの二酸化炭素排出量正味ゼロの達成に向けて、社会貢献ではなくビジネスの視点に立った企業の主体的な行動が不可欠であると考えている。設備機器や建築物の省エネにブレイクスルーをもたらすなどの技術的なイノベーションのみならず、ライフスタイルやまちづくりの転換を促す社会的なイノベーションについても広く議論し、新たな制度の創設やモデル事業の実施などにつなげていきたい。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none"> ・京都議定書から飛躍し、2015年12月に成立したパリ協定では、工業化以前からの世界の気温上昇を2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力をすることに世界が合意した。 ・今年5月にIPCC総会京都市開催を記念して開催したシンポジウムで、京都市においては「2050年までの二酸化炭素排出量正味ゼロ」を目指すことを表明した。 ・地球温暖化対策が経済成長・ビジネスと結びつき、自立的に対策が進むことが不可欠であると考えている。 	

アイデア⑬	リアル社会科ツアー
発案者	株式会社 Hibana（京都ペレット町家ヒノコ） 林業女子会@京都 松田 直子
アイデアの概要	
地域の仕事や生き方を知る，職業体験のツアーを実施する。【社会科とは】身のまわりの仕事や産業，歴史について学習しながら，広い視野に立って考察する力を養う科目。大人になったとき，社会でどう生きていくかを考えるためのヒントを学ぶこと。これまで，里山，田舎暮らし，木育，バイオマスをテーマに，大人向け，木育・バイオマス実践者向けを，実施している。	
アイデアを思い付くに至った背景・課題意識	
<ul style="list-style-type: none">・大人になるまで，地域の仕事を知り，多様な生き方や働き方の大人と知り合う機会が少ない。・子ども向けの職業体験は行われているが，建物の中での仮想の体験や工場見学などが中心である。・地域企業（中小企業）など，知られていない地域の仕事や職場を知ってもらいたい。・机上の学問やインターネットの情報ではなく，実際に体験し，生で感じてもらう機会を創出したい。・観光名所めぐりだけでなく，「働く人・現場」を訪ね，「仕事」をテーマにした新しい観光をつくりたい。	